

令和元年度 第58回

農林水産祭



— 2020.3 —

公益財団法人 日本農林漁業振興会

第58回 農林水産祭式典

令和元年度（第58回）農林水産祭式典は、令和元年11月14日（木）に明治神宮会館において、各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者、農林水産祭参加行事において農林水産大臣賞を受賞した優秀農林水産業者等約800名の方々が参加して行われました。

式典は、江藤拓農林水産大臣の主催者挨拶の後、畜産部門天皇杯受賞者の有限会社石川ファームの石川賢一氏が生産者を代表して、明治神宮総代の大島賢三氏が消費者を代表して、それぞれ収穫感謝の言葉を述べられ、次いで選賞審査報告と表彰状等の授与、ご来賓の祝辞、祝電の披露等が行われ、最後に明治神宮の九條道成権宮司による万歳三唱により閉幕しました。

農林水産大臣挨拶（要旨）

農林水産祭式典を挙げるに当たり、主催者を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい折、多くの皆様方に御出席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

今年は、八月の前線に伴う大雨や台風第十五号及び第十九号などの度重なる災害により、農林水産業にも多大な被害が発生しました。農林水産省といたしましては、被災された農林漁業者の方々が一日も早く経営再建できるよう、全力で取り組んでまいります。

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため、昭和三十七年から国民的な祭典として実施しており、今年で五十八回目となります。この間、農林水産祭を支えていただいている関係者の皆様に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

本日、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞を受賞される皆様に対し、心からお慶び申し上げます。

農林水産業は、「国の基」であり国民への食料の安定供給に加え、地域経済、地域社会の活力の維持に大きな役割を果たしています。このことを、国民の皆様に御理解いただけるよう努力していきたいと考えています。

天皇杯等三賞の受賞者をはじめ、全国の農林水産大臣賞の受賞者の取組は、地域の農林水産業、農山漁村の発展に大きく貢献してこられました。

皆様方におかれましては、本日を契機に後進の方々の模範となってさらに御活躍いただくことを御期待申し上げます。

結びに、本日御出席の皆様方並びに全国の農林水産業に携わる方々の今後ますますの御発展と御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



江藤 拓 農林水産大臣

《収穫感謝の言葉》—生産者代表・消費者代表



生産者代表
畜産部門天皇杯受賞
石川 賢一 氏



消費者代表
明治神宮総代
大島 賢三 氏

選賞審査報告 難波成任農林水産祭中央審査委員会会長

農林水産祭中央審査委員会では、昨年8月から本年6月までの約1年間に全国各地で開催されました277の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞されました466点を対象にして、書類審査および現地調査を行いました。その結果、7部門において、それぞれ天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の三賞の受賞者を決定致しました。また、「女性の活躍」について、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の二賞を選考致しました。

受賞者の方々の業績のうち、私からは天皇杯受賞者の方々について特筆すべき点をご報告申し上げます。

農産・蚕糸部門の富山県のアグリゴールド矢木は、水稻と大豆を主体とした経営面積約160haの大規模経営です。水管理、追肥などの栽培管理や乾燥調製を徹底かつ確実に行うことにより高収量と高品質生産を両立するとともに、メンテナンスによる機械の長寿命化など、省力化、低コスト化を徹底しています。また、新技術を率先して導入し、周囲に普及させるなど、地域の発展に努めています。

園芸部門の長崎県の島原雲仙農協雲仙ブロッコリー部会は、基盤整備を契機にセル育苗、半自動移植機など機械化体系の確立、全量共同選別出荷体制の整備により、若手農業者の定着・育成を進めつつ、一戸当たりの栽培面積を大幅に拡大させました。また、作型分散による周年栽培体系の確立や氷詰めでの出荷などにより市場からの評価も高く、モデル産地として今後の発展が期待されます。

畜産部門の北海道の石川ファームは、試行錯誤の上、有機飼料栽培技術を確立し、平成17年から完全有機に転換しました。また、有機畑作農家との連携により78%と高い飼料自給率を達成しています。有機牛乳は高価格で販売するとともに飼料を供給するTMRセンターの活用やGPS自動操舵による播種作業を行うなど労働時間の短縮を図り、高収益でゆとりある酪農経営を行っています。

林産部門の北海道の谷口夫妻は、釧路管内の苗木生産の約7割を担っています。苗畑を標茶町と弟子屈町の2か所に有し、それぞれの環境に適した育苗を行うとともに、床替えを1回から2回に増やして発根を促し良質な苗木を生産しています。「地元の種を地元で植えて、地元の森を育てる」という夢のもと、新たな造林樹種として期待されるクリーンラッチの採種園を造成するなど、地域で大きな役割が期待されます。

水産部門の宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所カキ部会は、東日本大震災を契機に過密状態のカキ養殖から脱却するため、養殖筏の間隔を従来より広げ台数を削減しました。その結果、養殖期間の劇的な短縮と品質の向上が実現し、1戸当たりの生産量及び生産額が向上するとともに、後継者の確保にもつながりました。

また、平成28年には日本で初めて国際的な水産エコラベル認証を取得するなど、環境負荷の低下と持続的な養殖業のモデル事例となるものです。

多角化経営部門の静岡県の京丸園は、多様な人たちが活躍できるユニバーサル農業を推進するとともに、ミニちんげん菜の周年量産、みつばの小型化など付加価値の高い商品開発を行い、オリジナルブランドを確立して収益性を確保しています。100名の従業員のうち25%が障がい者で、高齢者も働けるよう、作業機械の自社開発など省力化と作業環境の整備に取り組んでおり、農福連携の先進事例として高く評価されました。

最後に、むらづくり部門の沖縄県の「伊江村字西江上区」は、過疎化が進む中、昭和50年頃から儲かる農業、若者に魅力のある農業を目指し、灌漑農業の推進に地域が一丸となって取り組みました。現在では、花き生産などが大幅に増加するとともに、農業所得が向上し、若手農家も増えています。修学旅行を主とした民泊の取組も西江上区から始まり今では村全体で4万人の受入れに拡大しており、また、ラム酒など特産加工品も生産され、全国における「むらづくり」のモデル事例となり得るものです。

内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞につきましても、「女性の活躍」による受賞を含め、それぞれ素晴らしい皆様方が受賞されました。

本日、受賞されました方々に心からお祝いを申し上げますとともに、こうした方々の先進的な取組みが全国に普及し、日本の農林水産業がさらに活性化することを祈念致しまして、審査報告といたします。



中央審査委員会
会長 難波 成任 氏

天皇杯等三賞の表彰

天皇杯は、7部門の受賞者に対し江藤拓農林水産大臣から賞状が、林良博（公財）日本農林漁業振興会会長から天皇杯が授与されました。引き続き、内閣総理大臣賞は、江藤農林水産大臣から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与され、日本農林漁業振興会会長賞は、林会長から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与されました。



天皇杯受賞者



天皇杯の授与



内閣総理大臣賞受賞者



日本農林漁業振興会会長賞受賞者

ご来賓の祝辞、祝電等

天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の授与後に、内閣総理大臣安倍晋三様からのメッセージと衆議院議長大島理森様、参議院議長山東昭子様からのご祝電の披露がありました。また、ご出席の国会議員や祝電のご紹介をいたしました。

大臣と三賞受賞者等との懇談会

式典終了後大臣懇談会が行われ、天皇杯等三賞受賞者は、江藤農林水産大臣ほか農林水産省幹部、林日本農林漁業振興会会長、中家同理事長ほか同役員・評議員、難波中央審査委員会会長ほか各分科会主査等から、温かい祝福の言葉を受け和やかに懇談されました。



中家 徹
(公財)日本農林漁業振興会理事長

天皇杯等三賞の選賞

令和元年度の天皇杯等三賞（天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞）の選賞審査は、7月1日に開催された農林水産祭中央審査委員会第1回総会を皮切りに、経営（兼多角化経営）、農産・畜産、園芸、畜産、林産、水産、むらづくりの各分科会において行われました。平成30年8月から令和元年6月にかけて全国で開催された農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞された優秀農林水産業者466人（団体、夫婦連名を含む）を対象に、部門毎に書類審査と現地調査による厳正な審査が行われ、10月18日の中央審査委員会第2回総会において、決定されるとともに、同日農林水産省ホームページ等で公表されました。



農林水産祭中央審査委員会第2回総会

天皇杯等三賞選賞の結果

	部 門	出 品 財	受 賞 者		表彰行事
			住 所	氏 名 等	
天皇杯	農産・畜産	経営 (水稲)	富山県 下新川郡入善町	有限会社アグリゴールド矢木 (代表 矢木 龍一)	第48回日本農業賞
	園 芸	経営 (ブロッコリー)	長崎県雲仙市	島原雲仙農協雲仙ブロッコリー部会 (代表 本多 幸成)	第48回日本農業賞
	畜 産	技術・ほ場 (飼料作物(単年生))	北海道 網走郡津別町	有限会社石川ファーム (代表 石川 賢一)	第5回全国自給飼料生産コンクール
	林 産	技術・ほ場 (苗ほ)	北海道 川上郡標茶町	谷口 洋一郎* 谷口 希子*	平成30年度全国山林苗畑品評会
	水 産	技術・ほ場 (資源管理・資源増殖)	宮城県 本吉郡南三陸町	宮城県漁業協同組合志津川支所 戸倉出張所カキ部会 (代表 後藤 清広)	第24回全国青年・女性漁業者交流大会
	多角化経営	経営 (芽ねぎ、ミニちんげん菜、ミニみつば)	静岡県浜松市	京丸園株式会社 (代表 鈴木 厚志)	第48回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり活動	沖縄県 国頭郡伊江村	伊江村字西江上区 (代表 知念 邦夫)	第41回豊かなむらづくり全国表彰事業
内閣総理大臣賞	農産・畜産	技術・ほ場 (こんにゃく)	群馬県 利根郡昭和村	狩野 和紀* 狩野 郁江*	第45回群馬県こんにゃく立毛共進会
	園 芸	経営 (ブロッコリー)	石川県白山市	有限会社安井ファーム (代表 安井 善成)	平成30年度全国優良経営体表彰
	畜 産	経営 (養豚)	愛知県 額田郡幸田町	稲吉 克仁* 稲吉 幹子*	第48回日本農業賞
	林 産	産 物 (きのこ類)	岩手県 下閉伊郡山田町	芳賀 隆* 芳賀 幸子*	第52回全農乾椎茸品評会
	水 産	産 物 (水産加工品)	長崎県松浦市	日本遠洋旋網漁業協同組合 (代表 加藤 久雄)	第56回長崎県水産加工振興祭
	多角化経営	経営 (かき)	長野県飯田市	みなみ信州農業協同組合柿部会 (代表 常盤 昌昭)	第48回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり活動	福井県坂井市	一般社団法人竹田文化共栄会 (代表 廣瀬 哲夫)	第41回豊かなむらづくり全国表彰事業
日本農林漁業振興会会長賞	女性の活躍	女性の活躍 (肉用牛)	熊本県 菊池郡菊陽町	那須 真理子	平成30年度農山漁村女性活躍表彰
	農産・畜産	経営 (小豆)	北海道 河西郡更別村	渡 基文	第47回全国豆類経営改善共励会
	園 芸	経営 (りんご、おうとう、ぶどう)	北海道 有珠郡壮瞥町	藤盛 元* 藤盛 ひとみ*	第20回全国果樹技術・経営コンクール
	畜 産	経営 (肉用鶏)	山形県 最上郡鮭川村	株式会社アイオイ (代表 五十嵐 忠一)	平成30年度山形県ベストアグリ賞
	林 産	経営 (林業経営)	栃木県大田原市	須藤 義朗	全国林業経営推奨行事
	水 産	産 物 (水産加工品)	山口県萩市	J F 江崎フレッシュかあちゃん (代表 兒玉 カズエ)	第50回山口県水産加工展
	多角化経営	経営 (酪農・水稲等)	山口県山口市	有限会社船方総合農場 (代表 坂本 賢一)	平成30年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり活動	山形県鶴岡市	由良地域協議会「ゆらまちつ戦略会議」 (代表 齋藤 勝三)	第41回豊かなむらづくり全国表彰事業
女性の活躍	女性の活躍 (農産加工品等)	女性の活躍 (農産加工品等)	栃木県下野市	企業組合らんどまあむ (代表 大越 歌子)	平成30年度農山漁村女性活躍表彰

(注) 氏名等の欄に*を付したのは、夫婦連名で表彰するもの。

優秀農林水産業者に係るシンポジウム

農林水産祭の一環として、天皇杯等三賞受賞者の業績を広く普及することを目的として、東京都内及び地方において、シンポジウムを開催しています。

都 内 開 催

【テーマ：九条ねぎの需要開拓による農業活性化】（第22回）

令和元年12月9日（月）に東京都港区の石垣記念ホール（三会堂ビル）において、平成30年度多角化経営部門で天皇杯を受賞された「こと京都株式会社」の業績を取り上げて、シンポジウムを開催しました。農林水産省大臣官房の菱沼義久技術総括審議官のご挨拶のあと、農林水産祭中央審査委員会経営分科会の伊藤房雄主査による選賞審査報告、こと京都株式会社の山田敏之氏による業績発表があり、引き続き、伊藤主査の進行により、業績発表者、中央審査委員会経営分科会の納口るり子委員、日本野菜ソムリエ協会の福井理事長、京都府農林水産部経営支援・担い手育成課の藤原満弘主幹による意見交換や参加者との質疑応答が行われました。シンポジウムは、行政関係者、農林関係団体、関連企業等など約100名の参加の下、実施されました。



業績発表の様子



山田 敏之 氏



伊藤 房雄 氏



パネルディスカッションの様子

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（第22回）出席者

R1.12.9（敬称略）

区 分	氏 名	所 属 ・ 職 名 等
業績発表者	山田 敏之	平成30年度農林水産祭多角化経営部門天皇杯受賞者 こと京都株式会社 代表取締役
コーディネーター 及び選賞審査 報告	伊藤 房雄	農林水産祭中央審査委員会経営分科会 主査 (東北大学大学院教授)
コメンテーター	福井 栄治	(一社)日本野菜ソムリエ協会 理事長
コメンテーター	藤原 満弘	京都府農林水産部経営支援・担い手育成課 集落営農・法人化担当 主幹兼係長
コメンテーター	納口るり子	農林水産祭中央審査委員会経営分科会 委員 (筑波大学教授)
挨 拶	菱沼 義久	農林水産省大臣官房技術総括審議官
司会・進行	小栗 邦夫	(公財)日本農林漁業振興会 常務理事

地 方 開 催

【テーマ：マガキの適正養殖を目指して（過密養殖からの脱却）】（第23回）



後藤 清広 氏

令和2年2月18日（火）に宮城県仙台市の江陽グランドホテルにおいて、令和元年度水産部門で天皇杯を受賞された宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所カキ部会の業績に関するシンポジウムを開催しました。

水産庁の高瀬美和子研究指導課長と宮城県水産林政部の小林徳光部長のご挨拶の

あと、中央審査委員会水産分科会の生田和正主査による選賞審査報告、後藤清広カキ部会長による業績発表に引き続き、生田主査の進行により、コメンテーターと業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答などが行われました。

シンポジウムには、水産業関係者、行政関係者など、80名を超える皆様にご出席いただきました。



「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」(第23回) 出席者

R2.2.18 (敬称略)

区 分	氏 名	所 属・職 名 等
業績発表者	後藤 清広	令和元年度農林水産祭水産部門天皇杯受賞者 宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所カキ部会 部会長
コーディネーター 及び選賞審査 報告	生田 和正	農林水産祭中央審査委員会水産分科会 主査 (国立研究開発法人水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所所長)
コメンテーター	神山 孝史	国立研究開発法人水産研究・教育機構 本部研究推進部長
コメンテーター	佐々木貴文	農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員 (北海道大学大学院准教授)
コメンテーター	小野寺淳一	宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部長
挨 拶	高瀬美和子	水産庁増殖推進部研究指導課長
	小林 徳光	宮城県水産林政部長
司会・進行	小栗 邦夫	(公財) 日本農林漁業振興会 常務理事

【テーマ：進取の精神で取り組むむらづくり】（第24回）



知念 邦夫 氏

令和2年2月26日（水）に沖縄県那覇市のホテルサンパレス球陽館において、令和元年度むらづくり部門で天皇杯を受賞された伊江村西江上区の業績に関するシンポジウムを開催しました。

沖縄総合事務局の田中晋太郎農林水産部長、沖縄県農林水産部の島袋均統括監、伊江村の島袋秀幸村長のご挨拶の

あと、中央審査委員会むらづくり分科会の福与徳文主査の選賞審査報告、伊江村西江上区の知念邦夫区長による業績発表が行われ、引き続き、福与主査の進行により、コメンテーター、業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答が行われました。

シンポジウムには、企業や他県を含む行政関係者など約70名の皆様にご出席いただきました。



「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」(第24回) 出席者

R2.2.26 (敬称略)

区 分	氏 名	所 属・職 名 等
業績発表者	知念 邦夫	令和元年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞者 伊江村西江上区 区長
コーディネーター 及び選賞審査 報告	福与 徳文	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査 (茨城大学教授)
コメンテーター	合瀬 宏毅	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員 (NHK解説主幹)
コメンテーター	大島 順子	琉球大学国際地域創造学部国際地域創造学科 准教授
コメンテーター	島袋 秀幸	伊江村長
挨 拶	田中晋太郎	沖縄総合事務局農林水産部長
	島袋 均	沖縄県農林水産部農漁村基盤統括監
	島袋 秀幸	伊江村長
司会・進行	小栗 邦夫	(公財) 日本農林漁業振興会 常務理事

天皇皇后両陛下への拝謁と業績説明

令和元年度の農林水産祭参加表彰行事において、7部門それぞれで最も優秀な農林水産業者として選定され、最高の栄誉に輝いた天皇杯受賞者は、令和2年1月24日（金）皇居宮殿北溜において天皇皇后両陛下に拝謁し、受賞者の代表から天皇杯受賞に対するお礼言上を行い、天皇陛下から励ましのお言葉をいただきました。



天皇皇后両陛下への天皇杯受賞者のお礼言上

天皇皇后両陛下への業績説明

拝謁に引き続き、難波成任中央審査委員会会長及び菱沼義久農林水産省大臣官房技術総括審議官のご先導により、両陛下は、むらづくり部門、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門の順に、受賞者からそれぞれの業績について説明を受けられました。

各天皇杯受賞者のご説明に対して、両陛下から、展示物に関する技術や経営、生産状況等について多岐にわたるご下問があり、短い時間の中でそれぞれ温かい励ましのお言葉をいただきました。



農産・蚕糸部門の業績説明



園芸部門の業績説明

天皇杯受賞者の皇居特別参観・記念撮影

拝謁・業績説明に先立ち、宮内庁担当者の案内により、皇居特別参観が行われ、宮殿、中庭、二重橋、道灌堀、賢所、生物学研究所（水田）、紅葉山御養蚕所等を参観しました。また、皇居宮殿東庭松の塔前において、天皇杯受賞者を囲んで記念撮影が行われました。



天皇杯受賞者を囲んで記念撮影

天皇杯と農林水産祭

1. 天皇杯は、スポーツ及び農林水産業の振興のため、特に業績のあった最優秀者に対して授与されるものであり、現在、30個の天皇杯が宮内庁を通じて所管団体に下賜されています。
2. 昭和37年11月、財団法人日本農林漁業振興会が農林省と共催する農業祭参加表彰行事において、部門別の最優秀者（農産、園芸、畜産、蚕糸、林産、水産）として選ばれた者に対して授与するものとして、6個の天皇杯が宮内庁を通じて、財団法人日本農林漁業振興会に下賜されました。



その後、昭和54年度から、農林水産祭参加表彰行事に新たに加えられたむらづくり部門の特に優秀なものに授与されるものとして、天皇杯が1個下賜されました。

なお、部門名については、現在、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの7部門となっています。

3. 天皇杯は毎年農林水産関係団体等が「農林水産祭参加行事」として開催する約300の表彰行事において農林水産大臣賞（約500点）を受賞した者の中から中央審査委員会の厳正な審査を経て選定されます。

令和元年度（第58回）農林水産祭「実りのフェスティバル」

令和元年度「実りのフェスティバル」は、令和元年11月1日（金）、2日（土）の2日間、前年度同様に、東京都豊島区の池袋サンシャインシティにおいて開催いたしました。初日の開場に先立ち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご来場され、加藤寛治農林水産副大臣をはじめとする関係者や各地のゆるキャラ、キャンペーンガール等がお出迎えしました。

令和元年度の7部門の天皇杯受賞者の業績を紹介するコーナーでは、写真パネルをご覧いただきながら、農林水産省の菱沼義久技術総括審議官から両殿下へ天皇杯受賞者の業績のご説明が行われ、引き続き、加藤農林水産副大臣、菱沼技術総括審議官、中家徹日本農林漁業振興会理事長ほかのご案内により、政府（農林水産省）特別展示、地域農林水産展（都道府県コーナー）、農林関係団体コーナーをご視察いただきました。

初日、2日目とも穏やかな天候に恵まれたことなどから、2日間で約41,000人と多くの皆様にご来場いただきました。



天皇杯コーナーご視察



お出迎え

政府（農林水産省）特別展示



両陛下ご即位記念コーナー



田んぼの水はどこからやってくる？



日本茶でおもてなし



海の恵みをいつまでも



棚田に恋

内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞の紹介

令和元年度農林水産祭天皇杯受賞者のパネル展示のほか、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の受賞者をパネルで展示紹介しました。



内閣総理大臣賞パネル



日本農林漁業振興会会長賞パネル

東日本大震災被災地復興支援コーナー

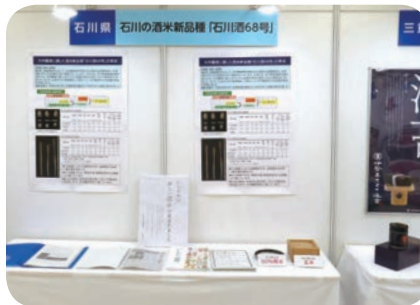
東日本大震災からの被災地の一日も早い復旧・復興を願い、会場内に被災地の農林水産物の展示、販売等を行うため、「東日本大震災被災地復興支援コーナー」を設置し、展示をしました。



(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会

都道府県技術・経営普及展

都道府県の独自性を有する農業技術や特徴ある農林水産物について、15 都道府県の出展により実物、パネル等で展示紹介されました。



地域農林水産展（都道府県コーナー）

地域農林水産展（都道府県コーナー）では、全国各地の農林水産物の試食、試飲、販売が行われ、大勢の来場者で賑わいました。出展された 33 都道府県のうち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下には、茨城県、東京都、福井県、愛知県、山口県、愛媛県、長崎県、北海道、山梨県、福岡県の順に 10 都道府県の担当部長等から出展产品のご説明を行いました。



ご視察：愛知県

地域農林水産展（都道府県コーナー）

■ ご視察該当都道府県



北海道



茨城県



東京都



山梨県



福井県



山口県



愛媛県



福岡県



長崎県

■ ご視察該当以外の出展県



青森県



岩手県



秋田県



山形県



福島県



栃木県



群馬県



埼玉県



千葉県



長野県



静岡県



富山県



石川県



岐阜県



三重県



和歌山県



徳島県



香川県



佐賀県



熊本県



大分県



宮崎県



会場風景



鹿児島県



農 林 水 産 業 啓 発 展

農林水産関係団体コーナー

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、農林水産関係団体コーナー12団体のうち、「全国い生産団体連合会」並びに「全国農業協同組合中央会（JA広場）」をご視察されました。

また、来場者が参加できる体験コーナーやクイズ、試食・試飲が楽しめるコーナーなど各種の展示が行われ、賑わいました。



全国農業協同組合中央会



全国い生産団体連合会



全国食肉生活衛生同業組合連合会



(公財) 中央果実協会



(一社) 日本鯉節協会



(公財) 日本食肉消費総合センター



(一社) 日本畜産副産物協会



(公財) 日本特産農産物協会



(一社) 日本パインアップル缶詰協会



(一社) 日本ハンバーグ・ハンバーガー協会



(独) 農畜産業振興機構

体験、ふれあい

体験乗馬

ジャンボ
うさぎ

ゆるキャラ



農林水産物の贈呈

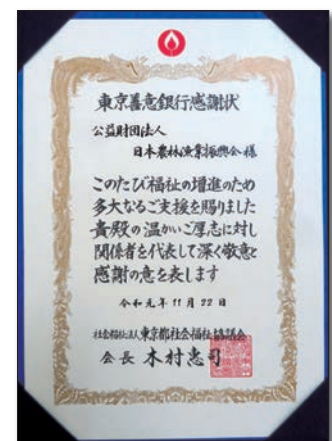
◆贈呈ご協力道県・団体◆

農林水産祭を祝い、実りの喜びを分かち合うとの趣旨で、実りのフェスティバルにおいて8道県・2団体から提供された物品は、東京善意銀行を通じて、福祉施設に贈呈されました。

これに対し、社会福祉法人東京都社会福祉協議会から令和元年11月22日（金）に（公財）日本農林漁業振興会に対して感謝状が贈られました。これは、ひとえに農林水産物をご提供いただいた皆様のご協力によるものであり、深く感謝申し上げます。



北海道（JAグループ北海道（北海道中央会・北海道信連・ホクレン・北海道厚生連・共済連北海道））、秋田県（全農秋田県本部）、山形県、群馬県（坂井養蜂場、中村養蜂園、針塚農産、全農群馬県本部）、長野県（おいしい信州ふードキャンペーン推進委員会）、静岡県（南駿茶業青年団、静岡県温室農業協同組合、静岡県椎茸産業振興協議会）、愛知県、大分県（全農大分県本部、大分県椎茸振興協議会、豊後別府湾ちりめん協議会）、JA全中、全国花き振興協議会（日本生花商協会、日本花き卸売市場協会、全国花卸協会、日本花き生産協会、日本インドアグリーン協会、JFTD）（順不同）



農林水産祭事業の概要

目的は

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と（公財）日本農林漁業振興会の共催により昭和 37 年から実施しています。

事業は

優秀農林水産業者に対して下賜された天皇杯等の授与と収穫を感謝する「農林水産祭式典」（例年 11 月 23 日に開催）と優秀農林水産業者の技術・経営の紹介、農林水産物の展示・即売等を中心とする「実りのフェスティバル」の 2 本柱で行われています。

実施体制は

農林水産祭を推進するための農林水産祭実行委員会、農林水産大臣賞の受賞者の中から特に優秀なものを天皇杯等三賞受賞者として選定する農林水産祭中央審査委員会等、多くの関係者の協力の下で実施しています。

財源は

国の補助金のほか、都道府県の負担金、農林水産関係団体の寄付金、経団連関係団体・企業の寄付金等、多くの皆様のご協力をいただいています。

close-up

農林水産祭（通巻 第132 号）

本誌に掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。
令和2年度の農林水産祭スケジュールにつきましては、
本会ホームページ等でお知らせする予定です。

発行所 公益財団法人 日本農林漁業振興会

令和 2 年 3 月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7F
TEL 03 (6441) 0791(代) FAX 03 (6441) 0792
URL <http://www.affskk.jp>